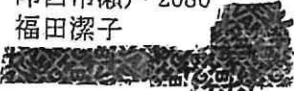


提案 1



(提案書 様式①-1)

協働の機会提案書(新規提案用)(修正案)	
2023年9月21日	
印西市長	様
	(登録者) 登録番号 01 — 001 名称 NPO 法人ハートフルコミュニケーション 千葉エリア 所在地 印西市瀬戸 2080 代表者職氏名 福田潔子 連絡先 
企画提案型協働事業を、下記のとおり提案します。	
提案事業名	家庭教育力の向上支援事業 → 虐待予防事業 『子育てを学ぼう！乳幼児期から始める子どもの心のコーチング』
現状・課題 (指定テーマ型の場 合はテーマ名のみ記 入)	核家族化が進み、地域とのかかわりも少なくなり、子どもの生活形態も変化し、人間関係の希薄化による「家庭教育力」の低下が懸念されていることは、「第二期印西市子ども・子育て支援事業計画」でも課題として提示されている。コロナ禍における社会の変化のスピードは著しく、SNS 等での情報があふれ、必要な情報を選び取ることが難しい中で、子どもを産み育てることへの不安が広がっている。また、2020年4月より、子どもへの体罰が禁止となり「しつけ」に関心を寄せる親が多い一方で、どのようにしつけていいのかわからないという悩みも多く、家庭内での問題が表面化せず、しつけの名の下に行われる虐待などの痛ましい事件が繰り返されている。子どもを健全に育てるための家庭教育力の低下は著しく、不登校やいじめ問題に親が対応できずに引きこもりへと発展するケースも増えている。
提案理由	子どもの健全な育成のためには、乳幼児期において、親子の信頼関係を構築することが大切である。なぜなら、そのプロセスで、子どもの生きるために欠かせない力、「自分で考えて行動する力」の土台となる、子どもの「自己肯定感」を育てることができるからである。しかし、その大切な時期に子育てのやり方がわからずに、子育てにストレスを感じ、「体罰」や「ネグレクト」といった虐待につながりかねない事態が起きている。さらに、思春期になると子どもへの接し方に悩む親が増加している。そこで、虐待予防の観点から、そのためには、「親自身の成長を促す学びの場」が必要である。コロナ禍での親同士のつながりがさらに希薄になった現状を鑑み、まずは、乳幼児期の親向けに特に「しつけ」に焦点をあて、乳幼児～思春期までの親を対象にした、体罰ではなく「対話による子育て」を学ぶ機会を作ることが急務である。

<p>提案内容 (予算の概算も記入)</p>	<p>子育て支援拠点などでの、乳幼児の親向けプログラムの実施</p> <p>① 参加型・体験型単発講座『子どもの心のコーチングワークショップ』 1回完結講座(1時間) × 3か所で実施 ・乳幼児期向け『イヤイヤ期の子どもとの付き合い方』1回 90分 ・思春期向け『思春期の子どもとの付き合い方』1回 120分</p> <p>② 対話型連続講座『ハートフルセッション』 連続6回の講座(1回2時間) × 2か所→1か所で実施</p> <p>予算概要:約30万円</p>
<p>貴団体の特性、協働 で実施するメリット (提案者が事業実施できる能力や有利なアピールポイント)</p>	<p>① 当団体では、「子どもの幸せな自立」をテーマに、親の家庭教育力の向上を図るため2006年のNPO設立当初より、教育委員会、地方自治体などからの依頼を受けて講座を実施。実績が豊富である(別紙2参照)</p> <p>② 「コーチング」を取り入れたプログラムはわかりやすく、日常生活ですぐに試せるものが多く、学びの効果を実感しやすい。</p> <p>③ 当プログラムでは、参加者同士が生産的に関わり、成果を作り上げる場面で使われるコミュニケーションスキルである「ファシリテーション」を用いるため、交流会や情報交換会とは違い、参加者が安心して自己開示ができる場づくりをすることで、深い気づきや発見を促すことができる。</p> <p>④ 乳幼児期から思春期まで、子どもの発達段階に合わせたコンテンツも豊富なため、子育て支援課児童相談係が対象とする子どもの年齢(0歳～18歳)と合致し、子育て中の親の切れ目のない支援が実現できる。この時期に必要な学びを組み込んだプログラムを作成できる。また、人数に合わせたきめ細やかな対応も可能である。</p> <p>⑤ ニーズに合わせて、オンライン・対面両方での実施が可能。</p> <p>⑥ 講師として、当法人代表理事である菅原裕子をはじめ、訓練を積んだ経験豊富なコーチが多数在籍している。</p>
<p>事業実施により 得られる効果 (自由提案型は今後の 展望も記入)</p>	<p>【効果】</p> <p>① 「体罰によらない」子育てを学ぶ場があることで、親の育児不安の解消ができ、子育てへの自信を得られる。虐待の防止発生予防につながる。</p> <p>② 連続講座参加により、親同士のつながりが期待でき、新しいコミュニティの創出ができる。孤立化を防げる。</p> <p>③ 行政との協働事業による持続・継続性のある講座展開を図ることで、今後、子どもの成長に併せた切れ目のない支援の実現が期待できる(例:乳幼児期ワークショップ⇒入学サポートプログラム⇒児童期ワークショップ⇒思春期ワークショップなど)</p> <p>【今後の展望】</p> <p>継続した講座展開ができれば、親の自主性・課題解決力が向上することにより、子育て世代の地域活動への積極的参加が期待できる。なぜならば、当法人のプログラムは「教え込む」のではなく、寄り添い、問いかけていくコーチングの手法を取り入れているので、参加者に「深い気づき」を与え、親の「考える力」を引き出すことが出来るからである。</p> <p>また、親がこのプログラムの恩恵を受けて、成長し、一人の大人として自立することができれば、自身が体験したプロセスを後進に伝えていこうという意欲につながり、継続して学び合う循環を生み出すことが出来る。</p> <p>さらに、その学びを生かせる場を行政と共に作り出すことで、子育て・親育てを健全に進める環境づくり、地域づくりにつなげていくことが可能であると考え。そのために、初年度は乳幼児期の親の学びの場を作ることから始め、5年後、10年後の未来を創る人材を育てていくことを視野に入れた多角的で、継続的な事業を今後も提案していきたい。</p>

講座詳細

1) 参加型・体験型単発講座

■乳幼児(未就学児向け) 90分～120分

タイトル	イヤイヤ期の子どもの向き合い方
目的	育児に対する知識不足による子育ての不安を解消する しつけ本来の意味を理解し、体罰によらないしつけの方法を手に入れる
目標	しつけとは何かがわかり、対話による適切なかかわり方を見つける 親の感情のコントロール法を手に入れる
定員	15～20人 託児あり

■思春期向け 120分

タイトル	思春期の子どもとの付き合い方
目的	親からのコントロールが効かなる時期の子どもをどう支えるかを一緒に考える 親のストレスを緩和する
目標	思春期とはどういう時期かがわかる 親の立ち位置を見直し、子どもの自立を促すかかわり方を手に入れる
定員	20人～30人 託児なし

2) 対話型連続講座

タイトル	ハートフルセッション『乳幼児の子ども心のコーチング』
目的	日常の中で出会う様々なことに対応できる知恵とスキルを得る。 子育ての喜びや悩みを分かち合うことで、親のストレスの緩和と成長を促す。
効果	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマに沿った問いかけに対し、参加者同士で話すことで深い気づきが生まれる。 ・連続講座であることで振り返ることができ、子どもへの変わり方の行動変容が起こる。 ・人の話を聞くことで、悩んでいるのは自分だけでないことを知り、安心感が生まれる。 ・人の話から自分の子育てのヒントを得ることができ、視野が広がり選択肢が増える。 ・回を重ねるごとに参加者同士サポートしあう関係性が生まれ、地域で子育てすることへの安心感を得ることができる。
定員	各回 10名 託児なし・子連れ参加可

各回テーマ・内容

- 第1回テーマ 親の役割 ～ヘルプとサポート～
親のあり方を考える。ヘルプとサポートの違いを理解する
- 第2回テーマ 子どもに教えたい3つの力 ①愛すること
 - ・子どもの生きる力の土台となる「自己肯定感」をどう育てるか
 - ・子どもが「愛されている」と感じるかかわり方を見つける
- 第3回テーマ 子どもに教えたい3つの力 ②責任
 - ・自分で考え行動する力を育てる
- 第4回テーマ 子どもに教えたい3つの力 ③人の役に立つ喜び
 - ・自分の力を自分以外のために使うことの喜びを教えることで人との良好な関係を築き、社会性を養う
- 第5回テーマ 子どもを幸せにするしつけ
 - ・しつけの目的を明確にし、自分の価値観に出会う
 - 何をいつからどうやって教えていくかヒントを得る
- 第6回テーマ 親の幸せは自分で作る
 - ・親の幸せが子どもの幸せになぜ繋がるのか理解し、自分が幸せになるためにできることを考える

●企画提案型協働事業への提案

- ・令和元年 5 月 市民活動団体登録
- ・令和元年度企画提案型協働事業企画案提出
アイデア審査 通過

●印西市からの依頼講座の実施

市民活動推進課 男女共同参画係

- ・「思春期・反抗期の子どもとの付き合い方」 R 元年 12 月 15 日
- ・「オンライン子育ておしゃべり会」 R3年 2 月 24 日
- ・「オンライン講演会 あなたらしくの子そだて」 R4年 2 月 13 日

●印西市での市民活動

- ・令和 2 年 5 月市民活動支援センター団体登録
- ・令和 2 年 5 月～「オンライン子育ておしゃべり会」立ち上げ
市民活動支援センターHP での告知
※コロナ禍では、活動はすべてオンライン
- ・令和 2 年 11 月 市民活動登録団体冊子への掲載(活動紹介)
- ・令和 3 年 7 月 市民活動支援センター発行団子通信への団体紹介への掲載
- ・令和 5 年 5 月 29 日 (対面活動再開)
「子どもの心のコーチング」講演会&グループセッション開催
講演会は川崎からのオンライン配信・グループセッションは印西会場での対面開催

以上

(提案書 様式②)

協働事業計画書			
事業名	虐待予防事業 『子育てを学ぼう！乳幼児期から始める子どもの心のコーチング』		
事業の目的	育児不安を解消し、虐待を予防する。 「体罰によらない子育て」の方法として、子育てにコーチングを取り入れた講座を実施する。		
市の施策上の位置付け及び協働部署	(施策名) 子育て支援の充実、虐待の予防 (部署名) 子育て支援課 児童相談係		
事業期間	令和 6 年 4 月 1 日 ~ 令和 7 年 3 月 31 日		
事業の内容 詳細に役割分担別に記入 (役割分担を、できれば事前に市の担当に相談して記すか、希望を記す)	提案者	市	
	○講座プログラムの作成 ○講座の告知チラシ作成 ○参加者の募集協力 ○講座の実施 ○アンケートの実施	○市公共施設での講座の主催 ○講座の告知 ○参加者の募集・管理 ○関係機関との調整・仲介	
事業に要する経費 <small>※詳細については、様式③による</small>	0 円	300,190 円	
事業の運営体制 (事業関係者、協力者、有資格者など)	経験豊富な内部講師により、地域に合ったプログラムを作成・実施する		
協働のメリット (各立場にとっての効果を簡潔に)	提案者	市民	市
	・行政との協働を通して、乳幼児期～思春期までの継続的な学びの場を提供できる。 ・団体の持っている講座開催のノウハウの活用	・体罰に寄らない子育ての方法を獲得する ・参加者同士および地域との繋がりを作る。 ・不安で孤独な子育てから、笑顔で仲間と楽しく取り組む安心の子育てへ。	・虐待の予防・啓発活動の拡充 ・顕在化しない家庭内での問題の掘り起こし。 ・講座運営の負担軽減
対話方法 <small>市との協議や打ち合わせ方法</small>	年間計画、プログラム内容、集客方法は年度初めに対面にて協議。その後計画に従ってメール等で随時情報交換を行う。チラシ作成や講座実施前には必要に応じて対面で協議。		
事業の周知や評価の方法 (具体的な目標値など)	市広報・HP 等で募集記事を掲載。子育て支援拠点・幼稚園・保育園・小中学校などの全保護者向けチラシ		
備考	関係団体等 その他 (

(提案書 様式③)

企画提案型協働事業経費内訳書

総事業費 (無償分を含む) 金 425,190 円

市から団体への委託費 (金 300,190 円)

【歳入】

項目	積算根拠 (内容・数量・単価など)	見積り金額(円)
市に負担を求め額	人件費・旅費交通費・チラシ作成印刷費・ 報告書作成印刷費等・アンケート作成集計費	300,190
その他収入		0
提案者負担分		0
無償労働力等換算金額	労働力	(125,000)
合計 (無償分を含めない)		300,190
無償分を含めた合計額		(425,190)

【歳出】

項目	積算根拠 (内容・数量・単価など)	見積り金額(円)
人件費 プログラム作成・実施	① 単発講座×2回 プログラム作成および実施 2回×33,000=66,000	66,000
	アシスタント 2回×5,500=11,000	11,000
	② 連続講座「乳幼児向け子どもの心のコーチング」 プログラム作成および実施 6回×11,000/回=66,000	66,000
	アシスタント 6回×5,500/回=33,000	33,000
会場設営・撤収	1,000円×2時間×2人×8回=32,000円	32,000
旅費	① 講師・アシスタント交通費 2回×2,000/回×2人×=8,000	
	② 講師・アシスタント交通費 6回×2,000/回×2人=24,000	32,000
チラシ作成費	チラシデザイン作成費1講座 5,000円×3件=15,000	15,000
チラシ印刷費	周知チラシ A4印刷 乳幼児期 1,300部×2件 4,960円×2=9,920 思春期 400部×1件 3,110	13,030
報告書等印刷費	用紙及びインク代 2,160	2,160
アンケート作成・集計	1,000円/h×30時間	30,000
提案者が負担する 無償労働力	1,000円×5時間×25人=125,000 ※千葉県最低賃金をもとに算出 (準備・打合せ・広報協力・報告)	(125,000)
提案者が負担する 無償機材等	なし	(0)
合計 (無償分を含めない)		300,190
無償分を含めた合計額		425,190

(提案書 様式④)

年間事業スケジュール

実施予定日	活動内容			参加人数
4月中旬 4月下旬	市との打合せ、契約 年間計画、全体講座プログラム内容、告知方法時期の検討			2名 2名
6月	講座内容の検討		会場の検討	2名 2名
	内容の決定			2名
7月	講座詳細決定 広報掲載依頼 チラシ作成			<u>2名</u>
8月	チラシ配布			11名
9月	参加者募集 受付スタート			
10月	アンケート作成	単発講座 ① 実施 ② 実施		<u>1名</u>
	アンケート集計			<u>2名</u> <u>2名</u> <u>1名</u>
11月	アンケート作成		連続講座	<u>1名</u>
	アンケート実施		1回目実施 2回目実施	<u>2名</u> <u>2名</u>
12月	アンケート実施		3回目実施	<u>2名</u>
			4回目実施	<u>2名</u>
1月	アンケート実施		5回目実施	<u>2名</u>
	アンケート集計		6回目実施	<u>2名</u> <u>1名</u>
2月	結果まとめ			2名
3月	市への実績報告			2名

細字：無償労働人数

太字：事業実施人数

提案2



(提案書 様式①-1)

協働の機会提案書(新規提案用)

令和5年 6月 23日

印西市長 板倉 正直 様

(登録者) 登録番号 ー

名称 印西・地域猫友の会

所在地 印西市小倉台 4-1-7-304

代表者 会長 小川 培雄

連絡先

企画提案型協働事業を、下記のとおり提案します。

提案事業名	「地域猫活動」普及啓発事業
現状・課題 (指定テーマ型の場合はテーマ名のみ記入)	殺処分によらず野良猫を減らしていく有効な取組みとして、「地域猫活動」は、多くの自治体で推奨されている。印西市でも、避妊去勢手術費の助成が行われているが、様々な理由から活用が広がっておらず、理解が進んでいない地区では、餌やりトラブルも少なからずある。また、高齢等の事情による飼育放棄や捨て猫、虐待、多頭飼育も社会問題となっている。猫の適正飼育の推進も含め、地域猫活動の普及を進めていく必要がある。
提案理由	地域猫活動は、制助成金度をつくれれば普及するものではなく、実地で支援できる人材が地域に必要である。行政が得意とするところと、実行経験のある市民団体がなければできないことがあり、相互の協力により、効果的な普及啓発ができ、人にも動物にも優しい地域社会としていくことができる。
提案内容 (予算の概算も記入)	適正飼育、地域猫活動の啓発と支援、多頭飼育や高齢等による飼育放棄など様々な事例に行政と市民団体が連携して対応していくことにより、地域人材を育成し、ネットワークを強化していく。現在の相談実績から年2,019,000 1,249,300円を見積もったが、実際の要請により対応していくこととなる。
貴団体の特性、協働で実施するメリット (提案者が事業実施できる能力や有利なアピールポイント)	印西・地域猫友の会は現在 100 名以上の会員を有し、市内・近隣市町で地域猫活動、保護猫・里親探し活動をしている「活動家」のネットワークをもっている。また、市の手術費助成に先駆けて、市内の動物病院と連携して手術費助成も行ってきた実績がある。協働により更にネットワークを強化し、地域での人材育成を進めることができる。
事業実施により得られる効果 (自由提案型は今後の展望も記入)	地域猫活動の取組みを増やすことにより、殺処分をゼロにし、野良猫を減らすことで猫による生活被害を減らしていくことができる。行政との協働により、関わる人材も増え、賛同者からの寄付を活かして、将来的には医療費等にアてる基金を構築していきたい。

(提案書 様式②)

協働事業計画書			
事業名	「地域猫活動」普及啓発事業		
事業の目的	愛護動物である猫が、適正に飼育され、たとえ飼い主がいなくても虐待や殺処分されることなく、地域で生を全うしてもらえる優しい地域社会をつくっていく。		
市の施策上の位置付け及び協働部署	(施策名) 犬猫適正飼育推進事業 (部署名) 環境保全課		
事業期間	令和6年4月1日 ～ 令和7年3月31日		
	提案者	市	
事業の内容 <small>詳細に役割分担別に記入 (役割分担を、できれば事前に市の担当に相談して記すか、希望を記す)</small>	①適正飼育の啓発と地域猫活動の普及 ・地域猫活動の出張サポート、継続相談 ・サポート事業用説明資料(啓発資料)の企画・作成 ・ホームページ等を通じた相談への対応 ・外部講師を招聘して一般向けの普及講演会の企画、実施 ②猫被害改善の提案と支援 (多頭飼育、捨て猫、虐待等)	①適正飼育の啓発と地域猫活動の普及 ・広報いんざい等への啓発記事の掲載 ・公共施設へのポスター掲示、啓発チラシ、パンフレットの配布 ・獣医師会等関係機関への協力要請 ・講演会、講座参加者の募集協力、施設の提供 ②適正飼育の啓発、市民からの苦情への対応、関係各所の調整	
事業に要する経費 <small>※詳細については、様式③による</small>	120,000 円	970,000 円	
事業の運営体制 <small>(事業関係者、協力者、有資格者など)</small>	会員には 地域猫活動だけでなく一時保護、里親探しに経験豊富な者が数多く在籍している。これまでも直接会にサポートを求められるケースが数多くあり、誠実に対応してきた実績がある。要請により、当会の運営委員会でコーディネートして適材を派遣していく。		
協働のメリット <small>(各立場にとつての効果を簡潔に)</small>	提案者	市民	市
	・地域猫活動の中間支援団体としての基盤を強化できる。 ・活動家ネットワークをさらに強化できる。	・野良猫を減らし、生活環境を向上できる。 ・生き物の命を大切にする優しい地域社会をつくれる。	・市民からの猫被害の苦情に適切に対応できる。 ・生活環境を考えるボランティア人材を増やすことができる。

提案 4



(提案書 様式①-1) ※変更後

協働の機会提案書(新規提案用)

年 月 日

伊西市長 様

(登録者) 登録番号 04 — 001
 名称 ベジガールズ 全世代に向けた運動支援
 所在地 伊西市西の原 4-4-15
 代表者職氏名 飯田 渚
 連絡先

企画提案型協働事業を、下記のとおり提案します。

提案事業名	保育園 年長児に向けた運動支援「年長さん思い出プロジェクト」
現状・課題 (指定テーマ型の場合 はテーマ名のみ記入)	<p>子供たちの体力低下・ココロが乱れる状況が続いている現状 運動不足による基礎体力と筋力の低下、生活習慣病予備軍増加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体面:姿勢の悪さ、転びやすい、疲れやすい、寝つきが悪い ・精神面:やる気、気力、集中力低下、イライラしやすい <p>これらの事からカラダとココロに支障をきたす大きな問題となっている</p> <p>子供たちが自ら身体の構造を知り、自分自身で健康を維持する事が課題</p>
提案理由	<p>上記現状・課題とコロナ期間中での自粛生活や長期間のマスク着用での 子供達の体力が著しく低下している事を理由に医療用バランスボールを使用する事で 楽しく効率的に体力や筋力をつけること、 また姿勢や呼吸など身体の構造を学ぶ事で自ら意識できるようになることを提案する。 年長児は小学生になる為の準備期間、話を理解していく年齢であると 考えるため、今回は年長児に限定。</p>
提案内容 (予算の概算も記入)	<p>公立保育園5園の年長児を対象にバランスボールで運動支援 「年長さん思い出プロジェクト」として実施 団体内、理学療法士が入り【プログラム作成】継続的運動支援によりデータをとること</p> <p><u>必要経費は 111 万円を見込んでいる</u></p>
貴団体の特性、協働 で実施するメリット (提案者が事業実施できる能 力や有利なアピールポイント)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3～5年 17園+今年度分(6月現在) 8園の予約あり ・年長児+(担任、保護者一部を含む)延べ310名の方に運動支援の実績 ・老若男女、多世代に講座を取り組んできた実績(社会福祉協議や子育て支援センター) ・伊西市放映【らーばんねっとTV】に出演(現在も放映中) ・ベジガールズは(一社)体力メンテナンス協会が発行するバランスボールインストラクター、 体力指導士、産後指導士であり理学療法士も在籍。 伊西市の特産品に扮しているため伊西市の魅力も伝わる。
事業実施により 得られる効果 (自由提案型は今後の 展望も記入)	<ul style="list-style-type: none"> ・医療用バランスボールを使用した運動支援により ・子供達の体力・免疫力向上、姿勢改善が期待出来る ・運動する事の楽しさ、大切さや ・カラダの仕組み(呼吸・正しい姿勢・免疫・成長ホルモン)も学ぶ事が出来る ・継続的運動支援を行う事で、カラダの仕組みを深く学べ、 データ化する事で、身体の変化を実感し講座終了後の日常生活においても 子供達が心身ともに豊かになり、笑顔で生活する事ができ 施策2を実現することに貢献できる。

協働事業計画書			
事業名	保育園年長児に向けた運動支援「年長さん思い出プロジェクト」		
事業の目的	子供達の体力促進、免疫力向上、姿勢の改善を医療用バランスボールを使用し楽しく行い自らの身体の構造を知り自分自身で健康を維持する目的		
市の施策上の位置付け及び協働部署	(施策名) 子供達の未来を育み誰もが心に豊かさをもたらすまちづくり (部署名) 保育課		
事業期間	令和6年4月1日 ～ 令和7年3月31日		
事業の内容 詳細に役割分担別に記入 (役割分担を、できれば事前に市の担当に相談して記すか、希望を記す)	提案者	市	
	<ul style="list-style-type: none"> ・指導プログラム作成 ・チラシ作成 ・指導内容の確認、練習会実施 ・保育園で指導実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・チラシの配布 ・必要道具の調達 ・関係園との調整、仲介 	
事業に要する経費 ※詳細については、様式③による	<u>187,710</u> 円	<u>1109,108</u> 円	
事業の運営体制 (事業関係者、協力者、有資格者など)	(一社)体力メンテナンス協会発行の 体力指導師、バランスボールインストラクターが 団体内 11名のうち4名が1園につき2名で指導に入り、 団体内理学療法士がプログラム作成、データをとる		
協働のメリット (各立場にとつての効果を簡潔に)	提案者	市民	市
	地域貢献活動として、さらなる笑顔と健康の輪が広がる	自らの身体の構造を知り自分自身で健康を維持することができる	未来を担う子供達の身体と心に豊かさをもたらせることができる
対話方法 市との協議や打ち合わせ方法	9月に中間報告として市への事業の進捗状況及び実績の資料を用意し、対面で報告する		
事業の周知や評価の方法 (具体的な目標値など)	チラシを作成し、保育園に配布する 園児の姿勢写真を撮り、団体内理学療法士によるデータの作成		
備考	関係団体等		
	その他 (添付書類等)		

<p>対話方法 市との協議や打ち合わせ方法</p>	<p>月ごとに、実施した活動の経過、成果、実績を文書又は対面で報告する。 また、市への苦情や要望につどつど協議して対応していく。</p>
<p>事業の周知や評価の方法 (具体的な目標値など)</p>	<p>事業概要の紹介や相談、講演会の周知については、広報いんざいや市ホームページ、市SNSで募集してもらう。動物の適正飼育や地域猫の活動を理解してもらう出張サポート要請に誠実に対応し事業を広めていく。</p>
<p>備 考</p>	<p>関係団体等 印西市市民活動支援センター</p> <p>その他 (年次目標)</p> <p>【1年目】 市に猫被害の苦情や地域猫活動の要望があった地区で、住民・市と協働により地域猫活動が展開できるようサポートしていく実践活動を着実に積み重ね、実績をつくる。サポート体制を整えるために、会員向け講習情報ネットワークを確立し、人材の育成に努める。ホームページを經由した相談にも対応できるよう適切に運営する。 また、動物愛護に関する一般向けの講演会を実施し、動物愛護精神の普及に努める。</p> <p>【2年目】 1年目で取り組んだことを着実に定着させ、さらに充実、基盤を強化する。人材育成と財政的な基盤を強化し、医療費等にあてる基金の設立を検討する。市を超えて連携する体制を整える。</p> <p>【3年目】 さらなる充実と基盤強化に努める。 基金の適切な運用を確立し、活動家の支援体制を整え、「中間支援団体」としての位置づけを確立する。 人材のフォローアップとなる勉強会等を継続的に開催し、人材データベースを構築する。</p>

(提案書 様式③)

企画提案型協働事業経費内訳書

総事業費 (無償分を含む) 金 1,249,300 円

市から団体への委託費 (金 970,000 円)

【歳入】

項目	積算根拠 (内容・数量・単価など)	見積り金額(円)
市に負担を求める額		970,000
提案者負担分	ホームページの構築費、運営費 10,000 円×12 月	120,000
無償労働力等 換算金額	・②猫被害改善事業の現地立ち合い、アセスメント、連絡調整(計3時間)の労働力 15,000 円(7,500 円×2人)×5回 ・サポート事業基本プログラム作成 1,026 円×15 時間 ・講演会 講師交渉・打ち合わせ、当日準備、運営 1,026 円×35 時間 ・捕獲機貸出し 66 回×500 円	(159,300)
合計 (無償分を含めない)		1,090,000
無償分を含めた合計額		(1,249,300)

【歳出】

項目	積算根拠 (内容・数量・単価など)	見積り金額(円)
人件費	①地域猫活動サポート事業(現地立ち合い、捕獲のサポート、地域理解・助成金申請の支援) 7,500 円×2人×36 回 ②猫被害改善事業(捕獲、一時保護、医療処置の立ち合い等で6時間) 15,000 円×2人×5回	690,000 ①、②ともに 単価契約
報償費	外部講師 講演会謝礼 1回	150,000
資料作成費	地域猫活動サポート事業用の説明資料 500 部×200 円	100,000
広報費 (提案者負担)	ホームページ構築費・運営費 10,000 円×12 月	120,000
保険料	傷害保険 1回2名活動1年分	30,000
提案者が負担する無 償労働力	・②猫被害改善事業の現地立ち合い、アセスメント、連絡調整(計3時間)の労働力 15,000 円(7,500 円×2人)×5回 ・サポート事業基本プログラム作成 1,026 円×15 時間 ・講演会 講師交渉・打ち合わせ、当日準備、運営 1,026 円×35 時間 ・捕獲機貸出し 66 回×500 円	(159,300)
合計 (無償分を含めない)		1,090,000
無償分を含めた合計額		(1,249,300)

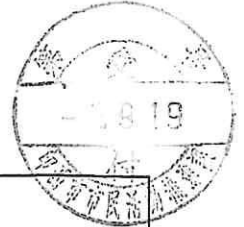
(提案書 様式④)

年間事業スケジュール

実施予定日	活 動 内 容	参加人数
4月中旬	市との打ち合わせ、契約	
5月中旬	地域猫活動サポート事業用基本プログラム作成 会員向け事業説明会	
通年、随時	ホームページの運営、問合せへの対応 地域猫活動の出張サポート 猫被害の対策、改善計画の提案等 活動家フォローアップ勉強会（会員向け人材育成）	
毎月	市への月例報告	
10月中旬	外部講師による一般向け講演会	
3月上旬	基金の設置検討 市への一年間の実績報告	

提案 3

(提案書 様式①-1)



協働の機会提案書(新規提案用)

2023年 9月 19日

印西市長 板倉 正直 様

(登録者) 登録番号 05-002
名称 NPO法人亀成川を愛する会
所在地 印西市木刈 1-6-4
代表者職氏名 理事長 小山尚子

連絡先 [Redacted]

企画提案型協働事業を、下記のとおり提案します。

<p>提案事業名</p>	<p>(仮称)古新田川上流部に残る希少な里山生態系を市民とともに後世に残すため企画検討 市民参加で守る別所谷津公園の谷津の生態系</p>
<p>現状・課題 (指定テーマ型の場合はテーマ名のみ記入)</p>	<p>当該地域の自然の価値は、会の前身である「(任意団体)亀成川を愛する会」の活動を通じて、2010年代初頭に自然保護に関係するいくつかの協会・学会から調査・提言が出されて、植物、昆虫類、鳥類などのかつての里山に存在していた希少生物がいまだに残るなど社会的に認識されました。その結果別所谷津公園池及び古新田川防災調節池が斜面林を残したまま谷津の形態で残り、河川改修の方法が自然に配慮した工法に変更されました。</p> <p>本会は、川・湿地・池・雑木林・草地で、在来種の復活、緩水流部分の形成、竹類の除去による明るい林復活や外来種の駆除など、年間二百数十回の活動を行っていますが、自然の維持・回復には多大な労力を要し、現状を正しく把握して、より効果のある方法の導入を図るとともに、活動参加者の拡大が必要です。</p>
<p>提案理由</p>	<p>古新田川上流部の自然が持つ価値は印西市が誇ることができるものですから、保護・回復を図るとともに、市民にその価値を伝え、観察会や保全活動への参加を増やして、より親しんでいただきたいと思えます。</p> <p>ここで提案する事業は、自然価値の確認、保全方法の検証と改善、市民が自然に触れ合う方法の検討です。これらは当会が単独で行うのは困難であり、また、市と協働することにより、客観性のある十分な内容とする必要があります。このようにして得た知見は、市が環境保護推進の施策を行う際の根拠としても活用しやすくなります。</p> <p>参考 緑の基本計画 第2章緑の将来像と目標3 緑の配置方針 環境基本計画 第5章重点的な取組 取組1 グリーンインフラ大作戦</p>

<p>提案内容 (予算の概算も記入)</p>	<p>自然調査の実施 約100万円 39万円(無償人件費等含まない) 古新田川上流部に限定して、調査機関に依頼して生物多様性調査を行います。この調査においては当会が保全活動を経て得ることができた知見を提供するとともに、当会会員も同行することを基本とします。 これにより、地域の自然価値を改めて確認するとともに、調査に必要な知識や技術の習得も図ります。 保全活動の改善 約80万円 約7万円 池、川、水路、湿地、草地、林のそれぞれにおいて、学識経験者や経験豊富な団体とともに、当会が行ってきた保全方法を振り返り、生物多様性を維持・増進する方法を検討・試行して、報告書にまとめます。 市民が自然に親しむ方法の検討 約50万円 約7万円 古新田川上流部の自然は市民が知って触れ合うことにより、印西市にとっての価値が高まります。現在も生物の保護を行いつつ、自然観察会・保全体験会などを行っていますが、この協働事業で得られた知見を活用した紹介資料の整備と、観察ルートの整備に関する検討を行います。</p>
<p>貴団体の特性、協働 で実施するメリット (提案者が事業実施できる能 力や有利なアピールポイント)</p>	<p>本会は、長年にわたって当該地域の保全と観察を行ってきており、川・湿地・池・雑木林・草地からなる多様な自然を周知熟知し、様々な保全方法の困難さ・効果・それに伴う自然と生き物の変化に周知を理解しています。 会の前身である「(任意団体)亀成川を愛する会」当時から、自然保護に関する協会・学会などの専門家と交流があり、調査・検討を進める体制構築が可能です。 当該地域の自然は、印西市と市民が長期にわたり安定的な協働を進めることで、守ることが可能になります。当会は既に長年にわたる実績があり、地域の在来・新規の住民とも関係構築を図り続けています。</p>
<p>事業実施により 得られる効果 (自由提案型は今後の 展望も記入)</p>	<p>この協働事業を通じて、対象地域の自然が持つ価値を客観的に捉えることができます。これにより、市と市民の価値認識を高める事ができるとともに、当会の保全・調査活動の方向性に示唆を得ることができ、保全方法の改善検討により保全の効果を向上することで、保全事業の継続性を高めることができます。 また、市民への周知が深まることにより、自然観察会・保全体験会などへの参加者が増え、保全を担う人を増やして、保全の継続性をたかめることができます。 さらに、観察ルート整備の検討成果を実際の整備につなげることにより、当該地域の自然を「そこにある」という価値から、「実際に見て・感じて・好きになる」という価値に高めていくことが可能になります。</p>

(提案書 様式②)

協働事業計画書			
事業名	市民参加で守る別所緑地の谷津の生態系		
事業の目的	谷津の生態系の残る別所緑地の自然の価値を確認し、より効果的に保護・保全するとともに、その価値を市民に伝えることによって、保全の担い手を増やす。		
市の施策上の位置付け及び協働部署	(施策名) 環境基本計画 重点取り組み グリーンインフラ大作戦。 緑の基本計画 緑の活動拠点 (部署名) 市民活動推進課、環境保全課、都市整備課		
事業期間	令和6年 4月 1日 ~ 令和7年 3月 31日		
事業の内容 詳細に役割分担別に記入 (役割分担を、できれば事前に市の担当に相談して記すか、希望を記す)	提案者	市	
	① 当該地域の生きもの調査の実施会の直接調査と、専門家調査への協力 ② 市民が気軽に保全参加できる方法の検討 調査結果を踏まえ、見学会、ワークショップ、シンポジウムなどにより、市民参加で検討する。	ワークショップへの参加呼びかけ ワークショップ、見学会等への参加	
事業に要する経費 ※詳細については、様式③による	2,000 円	601,344 円	
事業の運営体制 (事業関係者、協力者、有資格者など)	日本トンボ学会、神奈川トンボ調査・保全ネットワーク、NPO 富里ホテルを守る会、手賀沼水生生物研究会		
協働のメリット (各立場にとっての効果を簡潔に)	提案者	市民	市
	① 生態系を守ってまちづくりという会の目的が、多くの市民への周知や、市民参加の活動の増加により、達成できる。 ② 市の後押しにより、当会の活動への参加を呼びかけやすくなる。	① 印西市の里山生態系の価値を体感することによって、ふるさと印西への愛着と誇りを持てる。 ② 里山生態系の保護活動を体験することによって、生態系からの恩恵を実感できる。	① 緑の基本計画の緑の活動拠点、環境基本計画にあるグリーンインフラ大作戦の実装のモデル地区とすることができる。 ② この協働事業の成果を踏まえ、印西市の魅力である里山生態系を後世に残

			<p>すことができ、OECMへの登録への道が開ける。</p> <p>③ それによって、印西市の価値が一層高まり、企業の誘致に有利となり、人も集まり、よりよいまちづくりができる。</p>
<p>対話方法</p> <p>市との協議や打ち合わせ方法</p>	<p>進捗状況報告を兼ねた打ち合わせを2か月に1回程度開催。</p> <p>市民、関係団体によるワークショップ</p>		
<p>事業の周知や評価の方法</p> <p>(具体的な目標値など)</p>	<p>調査結果と保全方法検討結果の報告</p> <p>報告の方法と媒体は、検討する。</p>		
<p>備 考</p>	<p>関係団体等 日本トンボ学会、手賀沼水生生物研究会、NPO 富里のホテル</p> <p>その他 (添付書類等)</p>		

(提案書 様式③)

企画提案型協働事業経費内訳書

事業費 (無償分を含む) 金 約 1,138,344 円

市から団体への委託費 (金 601,344 円)

【歳入】

項目	積算根拠 (内容・数量・単価など)	見積り金額(円)
市に負担を求める額		601,344 円
その他収入		
提案者負担分	保険料(会員及び市内参加者は、市のボランティア保険加入)	2,000 円
償労働力等換算金額	労働力、機材等	535,000 円
合計 (無償分を含めない)		603,344 円
無償分を含めた合計額		(1,138,344 円)

【歳出】

項目	積算根拠 (内容・数量・単価など)	見積り金額(円)
人件費	ワークショッププログラム・ちらし作成 2回×20,000 ホタル調査(夜間) @2,000×3時間×2人×4回	40,000 円 48,000 円
報償費	トンボ調査・保全方法検討のための専門家謝礼 50,000 円 (30,000 円×1+10,000×2)×2回 ホタル調査・保全のための専門家謝礼 30,000 円×7回 ゲンジボタル飛翔調査 1回 ヘイケボタルの飛翔調査2回 クロマドボタルなどの陸生ホタル 1回 ホタルの幼虫、幼虫のエサとなる巻貝調査 2回 ホタル調査を踏まえたヒヤリング 1回 昆虫調査のための専門家謝礼 20,000 円×3回	370,000 円
旅費	NPO 富里のホタルの見学と打ち合わせ ガンリン往復 60 km 2回 @30 円×60k×2台×2回 専門家交通費 トンボ調査 4,637 円×2(往復分)×3人×2回	7,200 円 55,644 円

	ホテル調査 3,000 円×7 回 見学用バス(市のバスを使用) 2 回	21,000 円
印刷製本費	ワークショップ、現地ワークショップ開催の周知チラシ ワークショップ等の資料印刷	20,000 10,000
保険料	傷害保険 ワークショップ等の一般参加者(市民は市負担) 市外参加者保険料 @50 円×40 人=2,000 円	(2,000 円)
使用料	会場使用料(印西市の施設を利用)	
通信費		
消耗品費	ガソリン代 40 缶 @2500 円×4 刈払い機の替え刃 3,900 円×5 枚	29,500 円
提案者が負担する 無償労働力	1,000 円×3時間×延べ 170 人=510,000 円 (調査前の草刈り等準備及び調査、ワークショップ準備)	(510,000 円)
提案者が負担する 無償機材等	刈払い機 1,000 円×5台×5日=25,000 円	(25,000 円)
合 計 (無償分を含めない)		603, 344 円
無償分を含めた合計額		1, 138, 344 円

(提案書 様式④)

年間事業スケジュール

実施予定日	活 動 内 容	会員参加人数
4月上旬	市との打ち合わせ、契約	3名
	調査道の草刈り	8名
	調査道等の草刈り	6名
4月下旬	トンボ専門家との調査	4名
5月上旬	昆虫調査2回	2名
5月中旬	トンボ調査及びゲンジボタル(幼虫含む)調査	20名
6月	(専門家との調査と会独自の調査含む)	
7月	NPO 富里ホテルを見学	8名
	ヘイケボタル・陸生ボタル調査(幼虫含む)	20名
9月中旬	(専門家との調査と会独自の調査含む)	
	調査道等の草刈り	5名
	トンボ調査	5名
10月初旬	市への中間報告	3名
	専門家による昆虫調査	2名
9月中旬	ワークショップ等の準備開始(ちらし作成など)	5名
	参考になる保全場所見学会	10名
10月下旬	調査道等の草刈り	5名
11月中旬	専門家による巻貝調査	6名
11月下旬	ワークショップ準備	10名
1月中旬	ホテル等専門家等へのヒヤリングと保全方法検討会	5名
1月下旬	市民参加のワークショップ開催と見学会2回	20名
2月下旬	今年度のまとめと次年度に向けての話し合い 2回	3名
3月中旬	調査場所の草刈り	5名
3月末	市への実績報告	3名
	市との定例打ち合わせ(6回)	12名
4月～3月		計170名

(提案書 様式③) 修正後

企画提案型協働事業経費内訳書

総事業費 (無償分を含む) 金 1,296,818 円

市から団体への委託費 (金 1109,108 円)

【歳入】

項 目	積算根拠 (内容・数量・単価など)	見積り金額(円)
市に負担を求める額		1109,108 円
その他収入		
提案者負担分		
無償労働力等換算金額		(187,710 円)
合 計 (無償分を含めない)		1109,108 円
無償分を含めた合計額		(1,296,818 円)

【歳出】

項 目	積算根拠 (内容・数量・単価など)	見積り金額(円)
① 人件費	講師料など	908,872 円
② 消耗品・備品	ボール(45cm)・電動ポンプ・印刷	160,236 円
③ 交通費		40,000 円
※①②③内訳は別紙参照		
提案者が負担する 無償労働力	打ち合わせ ¥1026円×2h×5人×12回=123, 120円 市との打ち合わせ ¥1026円×1h×3人×5回=15, 390円	(138,510 円)
提案者が負担する 無償機材等	ボール(55cm) ¥6000円(税抜き)×5個=30, 000円 スピーカー(JBL 正規販売サイト) ¥16, 000 手動ポンプ ¥1600円×2本=3, 200円	(49,200 円)
合 計 (無償分を含めない)		1,109,108 円
無償分を含めた合計額		(1,296,818 円)

※提案書 様式③ 内訳別紙 修正後

①人件費	
講師料	20,000 円/1 園×5 園×6 回=600,000 円
プログラム作成	60,000 円
練習会	<u>1,026</u> 円/2h×4 人× <u>9</u> 回= <u>73,872</u> 円
理学療法士データ作成用出張	1,000 円/5 園×2 回(前期、後期)=100,000 円
体操 DVD 作成	75,000 円
	(合計) <u>908,872</u> 円
②消耗品・備品	
ボール(45cm)※ギムニク正規販売代理店	
	5,000 円(税抜き)×28 個※西の原保育園定員数=140,000 円
電動ポンプ※ロゴスオンラインショップ	7618 円×2=15,236 円
データ作成用資料印刷	5,000 円
	(合計)160,236 円
③交通費	
	500 円/1 園×2 人×5 園×6 回=30,000 円
理学療法士出張費	1,000 円/1 園×5 園×2 回=10,000 円
	(合計)40,000 円
無償	
ボール(55cm)※ギムニク正規販売代理店	6,000 円(税抜き)×5 個=30,000 円
スピーカー※JBL 正規店販売サイト	16,000 円
手動ポンプ	1,600 円×2 本=3,200 円
打ち合わせ	<u>1,026</u> 円×2h×5 人×12 回(月初・月末)= <u>123,120</u> 円
市との打ち合わせ	<u>1,026</u> 円×1h×3 人×5 回= <u>15,390</u> 円
	(合計) <u>187,710</u> 円

(提案書 様式④)

年間事業スケジュール

実施予定日	活動内容	参加人数
4月上旬	市との打ち合わせ、契約	3名
4月中旬	指導プログラム作成	3名
4月下旬	指導プログラム完成	
5月上旬	チラシ作成、配布	3名
6月～2月	指導開始	1園につき2名
9月	市への中間報告	3名
3月	市への実績報告	3名
6月～2月 (毎月)	上旬 団体内ミーティング	5名
	中旬 練習会	4名
	下旬 報告会	5名

提案 7

(提案書 様式① - 1)



協働の機会提案書(新規提案用)

令和5年 9月21日

印西市長 板倉正直様

(登録者)登録番号 04 - 005

名称 みんなのいっぽ

所在地 印西市西の原

代表者職氏名 伊藤 かつり

連絡先

企画提案型協働事業を、下記のとおり提案します。

<p>提案事業名</p>	<p>グリーンカーテン大作戦 「CO2を減らそう！ストップ温暖化大作戦！」</p>
<p>現状・課題 (指定テーマ型の場合 はテーマ名のみ記入)</p>	
<p>提案理由</p>	<p>2050年カーボンニュートラルに向けた世界的な動きの中、印西市では第三次印西市環境基本計画が作成され「CO2を減らそう！ストップ温暖化大作戦」が重点的な取り組みとして選出された。エコライフの普及・促進による省エネルギーの推進の具体的な施策として家庭や事業所でのグリーンカーテンの設置の促進が挙げられているが、これまで市内公共機関での設置は進んだものの、市民や事業者による設置は見られず、市のグリーンカーテンコンテストへの参加者数も限られている。</p> <p>印西市環境白書によれば印西市民の79.6%が環境問題に関心があると答える一方で「どのような取り組みをすればいいのかわからない」という声が40%に上り、「環境事業を行っていることを知らない」と答えた市民は41%に上っている。つまり市民へのグリーンカーテンの普及啓蒙、活動への参加促進に多くの市民が省エネ対策として取り組む可能性が十分にあると言える。</p> <p>各所でのグリーンカーテンの設置自体は具体的なCO2削減量を数値化できるものではないとしても、夏場の省エネ・節電効果は広く周知されており、グリーンカーテン設置により市や市民の環境意識が一般に見える化すること</p>

	<p>ができるのがグリーンカーテンの大きなメリットである。つまりグリーンカーテンは街ぐるみの省エネ・温暖化対策の旗印として、より多く設置されることで、街の環境意識の高まりを市民が認識し、市民ひとりひとり、自分のできる自発的な取り組み（みんなのいっぽ）を促していくことを期待できる。ただグリーンカーテンの設置については栽培の難しさが大きな課題となっている。先のアンケートでは実に32%の市民が「環境事業に取り組む時間がない」と答えている中で特に子育て・現役世代が4月の種まきから9月の片付けまでを行うことは相当な障壁となることが予想される。</p> <p>グリーンカーテンの苗からの配布や、わかりやすく丁寧な栽培情報をSNSで発信することにより野菜栽培の経験のない市民にとってもチャレンジしやすくする工夫、あるいはイベントや出張講座を通して環境意識があまり高くない市民にとってもグリーンカーテンの設置が楽しく魅力的に感じてもらえる機会をつくるのが、グリーンカーテン普及のカギとなると考えられる。</p> <p>このような点を勘案し、街ぐるみの省エネ活動の旗印として、グリーンカーテンの普及方法を提案する。</p>
<p>提案内容 (予算の概算も記入)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力あるグリーンカーテン苗の育成 (ゴーヤ、ホップ、パッションフルーツ、ホップ、バタフライピーなど) ・公共機関でのグリーンカーテン設置による市の環境活動PR ・小学校での出前環境授業によるグリーンカーテン普及啓もう ・市内事業者との連携イベントによる普及啓もう(商業施設、種苗販売店) ・SNS・HPを活用したグリーンカーテンのPR、情報提供 ・グリーンカーテンコンテストのオンラインエントリーの拡充による参加促進
<p>貴団体の特性、協働 で実施するメリット (提案者が事業実施できる能力や有利なアピールポイント)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・苗づくりについてはメンバーである市内栽培農家が担当し、栽培情報などについても適切な時期に情報を提供できる ・元小学校教師であるメンバーが市内の学校での出前授業を担当し、各学校のニーズに合った授業を実施できる ・グリーンカーテンコンテストのオンラインエントリー・SNSでの展開など忙しい世帯でも参加しやすい環境を構築できる ・公式ラインに登録した市民約60名については来年度も継続PR可能 ・活動の中で市内の大規模商業施設との連携イベントを実施しており、次年度以降もPR活動への協力関係が期待できる

<p>事業実施により 得られる効果 (自由提案型は今後の 展望も記入)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・苗の配布やコンテストへのオンラインエントリーの実施により、参加しやすい夏の環境活動としてグリーンカーテンの設置数促進させる。 ・公共施設でのグリーンカーテン設置や出前環境授業により子供たち、ひいては周囲の大人への環境意識の向上を期待できる ・市内の大規模商業施設や種苗販売店舗と連携することにより、事業者とともに効果的に環境意識を高めて行ける
---	--

(提案書 様式②)

協働事業計画書		
事業名	グリーンカーテンでゼロカーボン 「CO2を減らそう！ストップ温暖化大作戦！」	
事業の目的	地球温暖化に対する市民の意識を高める。	
市の施策上の位置 付け及び協働部署	(施策名) 自然との共生の実現 (部署名) 環境経済部 環境保全課	
事業期間	令和6年 4月 1日 ~ 令和7年 3月31日	
事業の内容 詳細に役割分担別に記入 (役割分担を、できれば事前 に市の担当に相談して 記すか、希望を記す)	提案者	市
	<ul style="list-style-type: none"> ・グリーンカーテンを使用した地球温暖化防止対策を市民に普及啓発 ・ゴーヤなどの種を苗に育成、配布 	<ul style="list-style-type: none"> ・広報いんざい及びホームページなどによる普及啓発 ・事業の財源確保 ・グリーンカーテンを設置する公共施設や出前授業を実施する教育機関との事前調整
事業に要する 経費 <small>※詳細については、様式③による</small>	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴーヤ等の種の育苗に ・公共施設でのグリーンカーテン設置・管理に係る費用 ・普及啓発のためのPR費用 ・イベントや出前授業にかかわる費用 ・コンテスト実施にかかわる費用 	
事業の運営体制 (事業関係者、協力者、有 資格者など)	<p>みんなのいっぽ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベント実施・普及啓蒙2名(元小学校教員、環境教育団体職員) ・苗の育成・参加者の栽培フォロー(農業者) ・経理1名 ・事務・SNS等の運営1名 	

	【協力団体】みんなのおにわ(森のようちえん)		
協働のメリット (各立場にとっての効果を簡潔に)	提案者	市民	市
	これまで活動してきた経験を生かして、地域に貢献し地域内のネットワークを広げる。潜在的な参加者を発掘する。	省エネルギーの推進。苗の配布や啓蒙活動により栽培経験がなくても、手軽に、楽しく環境により暮らしを実現できる。環境により街づくりに貢献できる。	・市民の主体性を引き出すことができる ・若年層、子育て世代など忙しい世帯の参加を促進できる ・運営管理コスト、時間の削減
対話方法 <small>市との協議や打ち合わせ方法</small>	毎月末に事業の進捗状況及び実績を、メール等で報告・情報交換する。		
事業の周知や評価の方法 <small>(具体的な目標値など)</small>	【周知方法】公共施設、学校等へのチラシの配布、SNSの配信、広報いんざい、市ホームページへの掲載等。 【普及の評価方法】SNSでのグリーンカーテン発信数(ハッシュタグ)、公式ライン登録者数、コンテスト応募予定数 100件(R3の約10倍)		
備 考	関係団体等		
	その他(添付書類等)		

(提案書 様式③)

企画提案型協働事業経費内訳書

総事業費 (無償分を含む) 金 1,618,220 円

市から団体への委託費 (金 1,384,336 円)

【歳入】

項 目	積算根拠 (内容・数量・単価など)	見積り金額 (円)
市に負担を求める額		1,384,336
その他収入		
提案者負担分		
無償労働力等換算金額	労働力 192,384 円 機材費 41,500 円	(233,884)
合 計 (無償分を含めない)		1,384,336 円
無償分を含めた合計額		(1,618,220)

【歳出】 ※GC=グリーンカーテン

項 目	積算根拠 (内容・数量・単価など)	見積り金額 (円)
種代	ゴーヤ2L40,000円、ヘチマ1000粒11,000円、パタフライピー100粒1800円(送料1600円)、パッションフルーツ苗10個×5900円、ホップ苗各10個×800円	92,400
育苗	1000苗×140円	140,000
種配布用袋	種用の小袋1000枚53,060円×ラベルシール印刷1000枚(1枚1.8円)	54,860
種袋詰め	種袋詰め・ラベルはり作業1002円/h×2名×10h	20,040
公共機関への配布	市内5か所公共施設グリーンカーテン運搬・設置・管理サポート1002円/h×2名×10h×5箇所=100,200円 運搬燃料10,000円 プランター、培土、ネット(5施設各20~30苗) 新規プランター2500円×20個、培土・追肥1500円×10個×5箇所、ネット1800円×5個×5か所	280,200
PR用品	PRパネル作成 A2パネル3枚4,500円 コンテスト募集用 A3ポスター40枚24,046円 GCチャレンジ・コンテスト募集チラシ	78,570

	<p>1000 枚×30 円/枚(カラー)=30,000 円 デザイン作成 1002 円/h×12h=12,024 持ち帰り用袋等備品 8,000 円</p>	
PR・啓蒙普及 情報提供	<p>質問対応・栽培情報・コンテスト情報発信 (Instagram 画像編集、投稿作成、7か月運用) 1002 円/h×1 名×6h×7か月=42,084 円 初心者向け取り付け・栽培・片付け方法情報発信 (youtube 動画4本収録編集) 1002 円/h×2 名×10h/1 本×3本=78,720 円</p>	120,048
GCコンテスト募集・開催	<p>公式ライン運用 7 か月システム料 5,000 円/月×7 か月=35,000 円 エルメッセージ運用 5 か月システム料 10,780/月×4か月=53,900 円 ※配信数に応じて料金が変動するため有料機関が 5 か月と試算 システム構築・運用・募集・集計 1,002 円×1 名×10h/1 か月×8 か月間=80,160 円 景品購入 1000 円相当×10 名、5000 円相当×1 名、 合計 15000 円 郵送手続き 1002 円/h×2名×6h= 12024</p>	196,084
教育施設配布	<p>小学校出前講座 3 回 (1 学年 200 人程度) 前日・当日にかかる人件費 1002 円×12h×3 回×4 名=144,288 授業プラン作成および打ち合わせ 1002 円×5h×3 回=15,030 備品購入・資料作成・苗運搬費用 新規プランター2500 円×8 個、培土・追肥 1500 円× 12 袋、ネット 1800 円×12 枚、備品 10,000×3</p>	248,918
市民配布	<p>環境フェスタ、大型商業施設イベント等3回 1002 円×10 時間×3 名=30,060 円 備品・材料費 15,000×3 回 夏休み自由研究サポート・農園イベントでのチラシ・ 種・苗配布および育て方ガイダンス各2h×6 回 1002 円/h×2 名×2h×6 回</p>	99,108
民間事業者配布	<p>飲食店等での設置モニター募集、種・苗・チラシの店 頭設置及び普及・啓蒙活動協力依頼 1002 円/h×3名×6h×3日</p>	54,108

提案者が負担する 無償労働力	全体の配布プラン作成 $1002 \text{ 円} \times 2 \text{ 名} \times 3 \text{ 日} \times 12\text{h} = 72,144 \text{ 円}$ 集合住宅等でのチラシ設置場所確保・設置依頼 $1002 \text{ 円} \times 3 \text{ 名} \times 2 \text{ 日} \times 6\text{h} = 36,072 \text{ 円}$ 公共施設・事業者への事前連絡 $1002 \text{ 円} \times 2 \text{ 名} \times 10\text{h} = 20,040 \text{ 円}$ チラシデザイン・苗タグデザイン打ち合わせ $1002 \text{ 円} \times 2 \text{ 名} \times 8\text{h} \times 4 \text{ 日} = 64,128 \text{ 円}$	(192,384 円)
提案者が負担する 無償機材等	苗運搬用軽トラ 5日×5500円/1日=27,500円 撮影用カメラ機器 7日×2000円/1日=14000	(41,500)
合 計 (無償分を含めない)		1,384,336 円
無償分を含めた合計額		(1,618,220)

(提案書 様式④)

年間事業スケジュール

実施予定日	活 動 内 容	参加人数
4月	イベント等での種の配布 SNS等でのグリーンカーテンの効果・魅力発信	
5月	公共機関、学校での苗配布 GWイベント等での種、苗配布	公共機関 種 1000 袋配布
6月	SNS 配信 種の育て方 苗の設置の仕方の発信 環境フェスタ・商業施設での苗の配布	苗 150 個配布 小学校
7月	SNS 配信 各植物の管理方法を適宜配信	苗 600 個配布
8月	夏休みイベント・自由研究サポートでの苗配布	一般市民 苗 350 個配布
9月	SNS 配信 片付け方の配信 グリーンカーテンコンテスト応募者募集 グリーンカーテンコンテスト集計	
10月	グリーンカーテンコンテスト結果発表・発信	
11月	総括	コンテスト参加 者 100 名

提案 8

(提案書 様式①-1)



協働の機会提案書(新規提案用)

令和 5年 6月 23日

印西市長 板倉 正直 様

(登録者) 登録番号 20-001

名称 NPO 法人 エコネットちば

所在地 印西市竹袋72

代表者職氏名 理事長 齊藤 敏男

連絡先

企画提案型協働事業を、下記のとおり提案します。

<p>提案事業名</p>	<p>竹袋調整池と周辺地域の維持管理事業</p>
<p>現状・課題 (指定テーマ型の場合 はテーマ名のみ記入)</p>	<p>竹袋調整池と周辺地域の維持管理事業</p>
<p>提案理由</p>	<p>繰り返し訪れる人の多い竹袋調整池と周辺地域は、景観に恵まれ野鳥も飛来する自然豊かな憩いの場所です。印西市の花の名所として市民はもとより隣接する地域の人々にも愛されています。この景観と環境を保つためには継続した維持管理が必要です。</p>
<p>提案内容 (予算の概算も記入)</p>	<p>遊歩道沿いに花を植え、緑地の草刈、植栽の管理、ごみな清掃などを行い、癒しの景観と快適な環境を維持します。 1. 花畑の整備・維持 2. 緑地の定期的な草刈 3. 随時のごみ清掃 4. 放流口のごみ除去 (概算予算 : 3,000,000 円)</p>
<p>貴団体の特性、協働 で実施するメリット (提案者が事業実施できる能 力や有利なアピールポイント)</p>	<p>エコネットちばは地元で活動するNPO団体で、地域住民・地元町内会・商店会・学校や他市民活動団体とも協力して、花畑づくりや地域まつり(コスモスふれあいまつり)を実施してきました。この地域の維持管理を行政と協働事業で実施することで、より良い癒しの場を提供でき、地域の期待に応えられます。</p>
<p>事業実施により 得られる効果 (自由提案型は今後の 展望も記入)</p>	<p>協働事業に提案して15年、継続した維持管理により環境が保全でき、植える花も工夫して充実してきました。今後もひょうたん島池広場が、憩い、癒し、そして健康増進の場として、地域住民に愛され利用されるコミュニティの場を提供できます。</p>

(提案書 様式②)

協働事業計画書			
事業名	竹袋調整池と周辺地域の維持管理事業		
事業の目的	竹袋調整池と周辺地域は自然豊かで景観に恵まれ市民の憩いの場となっています。この環境を保全するため年間を通じた維持管理を行います。		
市の施策上の位置付け及び協働部署	(施策名) 緑あふれる居住環境の実現 (部署名) 都市整備課		
事業期間	令和 6年 4月 1日 ~ 令和 7年 3月 31日		
事業の内容 詳細に役割分担別に記入 (役割分担を、できれば事前に市の担当に相談して記すか、希望を記す)	提案者	市	
	<ul style="list-style-type: none"> ○定期的な草刈り ○花畑の整備 ○植栽の管理 ○日常随時のごみ清掃 ○放流口のごみ除去 	<ul style="list-style-type: none"> ○維持管理の相談・協議 ○植栽管理の指導・助言 ○花(コスモス)の種の提供 	
事業に要する経費 <small>※詳細については、様式③による</small>	51,000円	3,104,000円	
事業の運営体制 (事業関係者、協力者、有資格者など)	農機具操作・造園作業に精通した会員を指導員として、会員15名とボランティアの協力体制で維持管理します。		
協働のメリット (各立場にとっての効果を簡潔に)	提案者	市民	市
	竹袋調整池周辺地域の維持管理で環境保全ができ、市民に憩いの場を提供、ふれあいのまちづくりへ展開できます。	年間を通して憩い・癒し・健康増進の場として利用でき、地域住民と交流の機会が広がります。	市民に愛される魅力ある地域拠点ができ、環境美化が図られ、市民サービス、地域の魅力が図れます。
対話方法 <small>市との協議や打ち合わせ方法</small>	定期的に計画事業の活動報告を行うとともに、随時・異常気象時の巡回・報告・協議・処置で安全確保と環境保全に努めます。		
事業の周知や評価の方法 (具体的な目標値など)	市広報、市HPやケーブルテレビ、地域ミニコミ誌等への情報提供、HPや現地掲示板による案内。来場者からの意見・感想聴取します。		
備考	(関係団体等) 地域町内会、小中学校、幼稚園、市民活動団体		
	(添付書類) 竹袋調整池作業図、スケジュール		

(提案書 様式③)

企画提案型協働事業経費内訳書

総事業費(無償分を含む)

金 3,905,000 円

市から団体への委託費

(金 3,104,000 円)

【歳入】

項 目	積算根拠(内容・数量・単価など)	見積り金額(円)
市に負担を求める額		3,104,000
その他収入		
提案者負担分		51,000
無償労働力等換算金額	労働力 584,000円、 機材 166,000円	(750,000)
合 計 (無償分を含めない)		3,155,000
無償分を含めた合計額		(3,905,000)

【歳出】

項 目	積算根拠(内容・数量・単価など)	見積り金額(円)
作業費	草刈(機械) 面積10,000㎡ 7回×157,000円/回	1,099,000
	耕運(花畑) 面積3,700㎡ 6回×65,000円/回	390,000
	施肥(花畑) 面積3,700㎡ 6回×80,000円/回	480,000
	消毒(花畑) 面積3,700㎡ 3回×45,000円/回	135,000
	植栽管理(桜38本、サツキ130㎡) 200,000円/年	200,000
	苗植(花畑) 面積 2,200㎡ 2回×150,000円/回	300,000
	種蒔(花畑) 面積 2,200㎡ 2回×50,000円/回	100,000
	除草(花畑) 面積 2,200㎡ 5回×30,000円/回	150,000
賃借料	仮設トイレレンタル 1棟 60,000円/年	60,000
保険料	損害保険 190,000円	190,000
提案者が負担する 無償労働力	1,000円×584時間=584,000円 (草刈 7日、耕運6日、施肥6日、苗植2日、種蒔2日、 花畑消毒3日、除草 10日、植栽管理6日、樹木消毒 1日、散水10日、花畑除草10日、放流口清掃14日、 ごみ拾い24日、側溝泥上げ3日)	(584,000)
提案者が負担する 無償機材等	草刈機(肩掛) 3,000円/回×6台×7日=126,000円 管理機(除草) 4,000円/回×2台×5日=40,000円	(166,000)
提案者が負担する その他の費用	案内看板、掲示板、注意喚起看板等一式 し尿汲み取り 5,500円×2/回・年	40,000 11,000
合 計 (無償分を含めない)		3,155,000
無償分を含めた合計額		(3,905,000)

(提案書 様式④)

年間事業スケジュール

実施予定日	活動内容	参加人数
		延べ人数
4月上～中旬	(芝桜まつり)	(20名)
5月～11月	草刈り作業(7回)	70名
5月上旬～	耕運(6回)	18名
6月下旬～	施肥(6回)	30名
6月中旬～	苗植え(2回)	24名
6月中旬～	散水(随時)	10名
7月下旬～	種蒔き(2回)	10名
7月下旬～	花畑消毒(3回)	9名
7月下旬～	樹木消毒(1回)	3名
5月上旬～	花畑除草(芝桜他)	30名
9月中～下旬	(コスモスまつり)(花畑開放)	(20名)
年間	植栽管理(剪定等)	12名
年間	周辺環境整備(ごみ拾い)	24名
年間	放水口のごみ除去	14名
年間	仮設トイレ清掃(設置5月)	12名
年間	側溝泥上げ	3名
		計269名 (40名)

作業図

草刈
花畑
ササ
藤
桜

